

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 1月 25日

事業所名 神港園 レインボー西宮放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○		定員10名に対し職員を5～6名配置。 職員1名に対し児童数が2以上にならないよう配置している。	職員の急な欠勤に関しては、人員の補充が間に合わない事もあった。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		高齢者施設併設の為、段差などは特にない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	業務ノートや、課題の共有時間を設け情報共有と改善に取り組んでいる。	常勤職員や勤務日数の多い職員間では取り組めているが、週1回などの日数の少ない職員に関して、まとめたの共有になる事がある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		12月に実施結果を集計し会議を設けた。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人ホームページにて公開。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		西児連にて他事業所との相互評価を実施。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での支援マニュアルを策定し、定期的にSSTやABAなどの研修を実施している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者から情報を聞き取り、アセスメントシートを活用しながら計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		統一した書式で使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	大きなイベントなどはチームで立案している。	日々の活動に関しては、個人での考案になる事もある。その為、軸となるような考え方など基礎的な研修は実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎日の集団遊びの活動は、職員が日替わりで担当し、多様な活動を提供している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		児童それぞれの個別目標に対して、日々支援をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団での活動が難しい場合や、難しい児童には個別での活動を設定するなどしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		児童を受け入れる前に、活動の確認、来所児童の様子確認に取り組んでいる。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	特に申し送りが必要な場合には、送迎終了後に情報を共有している。	送迎後での共有の時間を設定できていない為、情報の重さが軽いものに関しては翌日になる事がある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		児童の様子はなるべく細やかに記入している。(連絡帳は電子化)	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日々の支援に関しては毎日チェックを行い、定期的にモニタリング会議を設けている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が出席をしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		各学校の先生とも連携をしながら、伝達漏れがないよう取り組んでいる。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		該当の利用児童がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		該当の児童がいない。共有が必要になれば積極的に取り組む。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		未来センターや、子ども家庭支援課の担当者と連携し、適宜助言をもらっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		特に活動はない。保護者ニーズなども踏まえ検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			地区の社会福祉協議会の会議に参加。地域内での課題の共有、連携に取り組んでいる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		今年度の実施を計画していたが、コロナの感染拡大に伴い中止している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約時、また適宜説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談をし易い関係づくりを大切に、事業所内相談を実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		夏祭りへの招待と、年末に活動報告会を実施している。	父母会自体はない。ニーズがあればサポートしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応についてのマニュアル、体制を整備している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		2ヶ月に1回紙媒体での会報で発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付き書庫で保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		それぞれが受け取りやすい方法での発信などに配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		毎年恒例の地域向けの秋祭りがコロナで中止となっている。次年度は開催予定。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		避難訓練や防災訓練は行っているが、保護者への周知には至っていない。今後会報等でお知らせをしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		施設全体で定期的に取り組んでいる。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		3ヶ月に1回の委員会と、虐待防止研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束が必要になるほどの利用児が不在。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者から情報を頂き、厳重に対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎月毎にまとめ共有している。	